

活動報告

モニタリングサイト1000 ガンカモ類調査交流会 in 谷津干潟 神山和夫

2月27日(日)に、千葉県習志野市の谷津干潟自然観察センターでモニタリングサイト1000ガンカモ類調査の調査員交流会を開催しました。

今年は「東京湾のガンカモ、いまむかし」をテーマに、埋立などの開発行為によって変化していく東京湾岸のガンカモ類について、この地域に詳しい皆さんに発表をしていただきました。



写真1. ガンカモ類調査交流会のようす。

東京湾のガンカモの話

まず最初に塚本洋三さん(バードフォトアーカイブス)が、現在の行徳鳥獣保護区付近の戦後まもない頃からの貴重な写真を使って、むかしのガンカモ類の様子を紹介してくださいました。いまでは見られないマガンやサカツラガンが越冬している光景には感銘を受けました。しかし、その数がだんだん減っていき、ついに1羽も渡来しなくなるまでの話は、聴いていてしみりてしまいました。

続いて榎本茂さん(NPO法人海塾)が、東京都港区で再開発のために繁殖場所がなくなったカルガモのために運河に人工巣を浮かべたところ、それを利用してカルガモがヒナを育てているという話題を紹介して下さいました。浮き

巣は2m四方のイカダで、2008年以来3年続けて数組の親子が利用しているそうです。海塾は地域のコミュニティ作りをしているNPO法人ですが、住民の皆さんとカルガモの親子を観察することは、人間の家族について考える機会にもなると話されていました。



写真2. 芝浦アイランド(東京都港区)の浮き巣で生まれたカルガモのヒナ。

調査についての話題では、箕輪義隆さん(千葉県野鳥の会)から東京湾で数万羽が越冬するスズガモをどのように数えるかについて発表がありました。いろいろな方法を試されたということで、写真を撮ってメッシュに区切って数える方法や、飛行機で空から調査する方法もありましたが、いまでは海図を使って航路や船舶用の標識を目印にして海域を区切って、ダブらないようにカウンターで数えるという方法で調査されているということでした。

掛下尚一郎さん(東京港野鳥公園)からは、野鳥公園で越冬するカモの数がオオタカなどの猛禽類の出現率と反比例して減少していることや、谷津干潟のボランティアグループの皆さんからは1990年から20年間のカモ類の経年変化について発表がありました。谷津干潟だけでなく他の生息地との比較が必要だというお話を聞いて、バードリサーチでも各地のガンカモ調査のとりまとめをしっかりとやっていかなければいけないと思いました。

バードリサーチは環境省が実施しているモニタリングサイト1000の事務局を務めています。ガンカモとシギチドリ類の調査それぞれで、毎年各地で集会を開いています。皆さんのお近くで集会があるときは、ぜひご参加下さい。

お知らせ

シギ・チドリ類の動画集

シギ・チドリ類の動画を集めたホームページを作成しました。

Youtube にアップロードした動画をはめ込む形で約50種を掲載しています。さまざまな行動やさまざまな羽衣がある鳥の仲間ですから、今後も順次増やしていけたらと思っています。



図. 動画ページ。

す。また、解説をつけて図鑑らしくしていきたいと思っていますので、解説に協力していただける方や、動画を提供していただける方は、守屋(moriya@bird-research.jp)までご連絡いただければ幸いです。

まだまだ試行錯誤していますので、ご意見・ご指摘もお待ちしております。

■バードリサーチ シギ・チドリ類動画図鑑
http://www.bird-research.jp/1_shiryo/shorebird-M.html

バードリサーチニュース 2011年3月号 Vol.8 No.3

2011年3月29日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ
〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9
TEL & FAX 042-401-8661
E-mail: br@bird-research.jp

URL: <http://www.bird-research.jp>

発行者: 植田睦之

編集者: 守屋年史

表紙の写真: マガン